

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
在外研究
2010年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名		氏名	
	観光学部交流文化学科・教授		大橋 健一 印	
研究課題	アジアをめぐるトランスナショナルな人の移動と文化の動態に関する研究			
研修期間	2010年 9月 15日 ~ 2011年 9月 14日 (365日間)			
経費	年度経費	SFR 助成額	所属学部からの補助額	合計
	2009年度	0円	0円	0円
	2010年度	1,305,100円	850,000円	2,155,100円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	ヴェトナム	ヴェトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学 国際文化研究センター		
研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)				
<p>本研究は、グローバル化や地域統合化の中で、急速な社会経済的發展に伴い、著しい社会文化變動を経験するヴェトナムを中心としたインドシナ地域を事例として、複合的な人の移動現象とそれがもたらす「文化」構築過程の動態の解明を試みようとしたものであり、2010年9月から2011年9月までの1年間にわたるものとして計画された。</p> <p>2010年度は全研究計画日程の前半に相当し、特に各種資料収集、文献調査を通して研究の基層となる研究対象地域をめぐる時間軸および空間軸に照らした人の移動現象の多様性とその動態の基本動向の把握に努めた。また、本研究のキーワードである「人の移動」「文化」「観光」「都市」「植民地主義」に関わる諸課題、研究対象地域に関してハノイおよびパリで開催された各種の国際会議、ワークショップ、講演会等に参加し、多くの知見を獲得すると共に、関係研究者との議論を通して本研究が扱う諸課題の検討を行った。</p> <p>さらに上記作業と平行して、本研究で人の移動の複合性と「文化」構築の動態を解明する際の切り口として重視する「観光」「都市」「植民地主義」のテーマを総合的に観察可能な現象として植民地遺産の観光資源化に着目し、ヴェトナム、ラオスにおいて現地調査を実施した。</p> <p>これらの研究作業を通して以下の諸点が明らかとなった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人の移動と文化との関係をめぐっては、人の移動が単純に文化の移動と変化を促すというよりも、むしろ、人の移動現象によって生み出される多様な社会関係のありかたに応じて、「文化」が構築される多様な場面が出現し、その各々の場面に関与する多様なアクター間の政治的相互作用の過程として現象を理解、分析することが文化の動態的解明には有効である。 2) 人の移動の結節としての都市は、したがって「文化」構築の場面の多様性という点において大きな特徴を有する。そして、都市における「文化」構築の場面の多様性は、結果として都市に文化的重層性をもたらすことになる。ただし、個々の社会的場面において重層化した都市文化のどの層が掘り起こされ、「文化」としてとらえられるかは状況によって多様に異なる。また、それら複数の「文化」をめぐる言説間でさまざまな葛藤や論争も展開する。 				

研究成果の概要 (つづき)

- 3) このような多様な社会的場面における「文化」構築の状況を観察、分析する対象として「文化遺産」をめぐる言説に着目することは、問題を具体的に考察する上で一定の有効をもつ。「文化遺産」をめぐる言説は、それを「遺産」とする担い手の立場性が重要性をもつとともに、文化政策や観光など社会の多様な場面において複数の公的な言説が生産され、それらが流通、消費(受容と反響を含む)されている。これらを具体的かつ詳細に観察することによって「文化」構築の動態という課題により具体的に接近することが可能となる。
- 4) 本研究で事例としているヴェトナムを中心としたインドシナ地域における「文化」および「文化遺産」を考える上で、同地域の植民地化の経験は、重要な問題群を構成する。同地域の植民地化に伴う人の移動は、植民地としてのインドシナ地域、宗主国としてのフランス双方において多くのインドシナ地域をめぐる「文化」言説を生み出すこととなった。とりわけ、植民地状況下に整備された「文化」をめぐる諸制度は、文化を「文化」として枠付け、評価する機能を果たすとともに、そこで構築された「文化」の枠組みは、脱植民地化後の同地域の「文化」言説のありかたにも多大な影響を与えた。特に同地域において「文化遺産」の問題を考察する上で、植民地体制下に設立されたフランス極東学院(EFEO)の活動に着目する必要がある。
- 5) インドシナ地域の植民地化の経験は、脱植民地化後の同地域において「植民地遺産」というもうひとつの文化遺産をめぐる重要な「文化」言説を生み出すこととなった。特に今日加速化するインドシナ地域をめぐる観光に伴う人の移動現象において「植民地遺産」の観光資源化は、ひとつの重要な課題をなしており、インドシナ地域の各地で展開する観光開発における「植民地遺産」の扱いは、現代の同地域をめぐる重要な「文化」構築の動態的過程としてとらえられる。

なお、冒頭に触れたように本研究は未だ途上にあり、2011年度に継続される研究によってさらなる課題の追究を行っていく。

キーワード (研究内容を適確に表しているものを5項目で記入)

[人の移動] [文化] [観光] [都市] [植民地主義]

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文(著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書(著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催(会名、開催日、開催場所)
- ④その他(学会発表、研究報告書の印刷等)

① 大橋健一「重層化する文化景観」『交流文化』第11号、2011年、43-47ページ

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。